

平成24年度 第1回新潟市花育推進委員会 会議速報

日時	平成24年7月18日(水) 午前10時～午後12時
会場	新潟市食育・花育センター講座室A
出席委員	石川委員、伊藤委員、小川委員、加藤委員、児玉委員、佐藤委員、関委員、森田委員、米田委員
欠席委員	石井委員
傍聴者	なし
事務局	小林農林水産部長 食育・花育センター(大谷所長、瀧澤係長、木村技師、早川職員) 環境政策課(伊藤主査) 保育課(塚田指導保育士) 食と花の推進課(石野主事) 農村・都市交流施設整備課(石崎課長補佐、佐藤主査) 公園水辺課(桑原課長補佐) 学校支援課(田村指導主事)

概要

1 平成23年度新潟市花育推進計画数値指標達成状況について

【資料1】

(事務局説明)

- 資料を基に、花育推進計画数値指標現状値一覧について説明

(主なご意見・ご質問等)

- 既に目標を達成している項目は設定し直すのか。
(事務局) 基本的にはこのままだが、それも含めてご意見いただきたい。
- 公園面積が増えているのか。「美しい農村景観の形成」とは。
(事務局) 増えている。農村地域の景観形成を地域で作っていかうという取り組み。
- 花育マスターの登録者数が2倍以上となり、ジャンルの幅も広がってきた。

2 平成24年度花育推進事業主な取り組みについて

【資料2-2、2、資料3】

(事務局説明)

- 資料を基に、重点事項の考え方や個々具体的な事業について説明

(主なご意見等)

- 学校での活動を進めるならば、学校が計画を立てる前にPRして、各学校が活動に

取り組む意識を育てる必要がある。

- ・ 保育園でも進められるようなプログラムがあって、保育士の研修会を開いてもらえれば、もっと活動しやすくなると思う。
- ・ 子どもだけでなく、親御さんと一緒に参加できるようにすべき。教育委員会とのタイアップが重要である。
- ・ 地域教育コーディネーターの研修会を開いて欲しい。センターに学校が利用できるバスがあると良い。生産をやめた農地を市が借りて体験農園にしたらどうか。
- ・ 生産者も協力したい気持ちはあると思うが、外に出ていくことは難しい面もあるので、生産現場に来てくれるのであれば協力できるのではないかな。
- ・ 花育マスターは数を増やすだけでなく、今登録している方々をもっと活用することも必要ではないかな。
- ・ 花育マスターが企画段階から関わるのが重要。一人で対応できない場合もあるので、センターのボランティアの手が借りられると良い。
- ・ 花育マスターのアシスタントが必要。ボランティアを活用するには研修プログラムが大切である。
- ・ ふるさと花カルタは年齢も関係なく楽しめるので、是非作って欲しい。

3 農村・都市交流施設の整備状況について

【資料4】

(事務局説明)

- ・ 資料を基に、食と花の交流センターエリア、アグリパークエリアについて説明

(主なご意見等)

- ・ 食育・花育センターで反省すべき点は、同じことを繰り返さないで欲しい。樹種や花の品種の選定にあたっては、適材適所であることが重要であるとともに、デザインとして美しい花を見せる工夫が必要である。
- ・ 見本園の設計を進める段階で、当委員会の意見を聞いて欲しい。
- ・ 農業研究センターだけでなく、アグリパークにも花の育種技術を学べる花きほ場が必要である。

4 その他

特になし

次回開催

- 平成25年2月